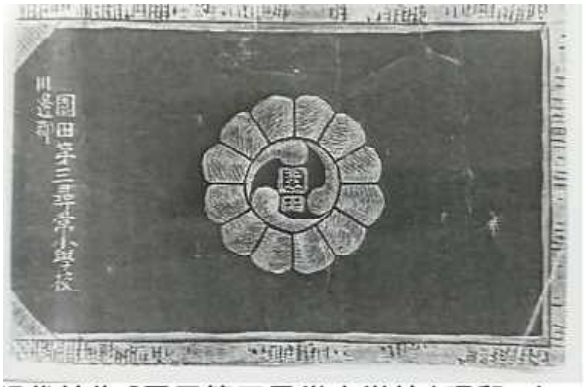
戦争と学校（8）焼かれた校旗

昭和２０年８月１５日、戦争が終わりました。戦いに負けた日本には、ＧＨＱ（General Health Questionnarie）がやってきました。ＧＨＱは、日本語では「連合国軍最高司令官総司令部」と訳されます。、ＧＨＱは、第二次世界大戦終結に伴うポツダム宣言を執行するために日本で占領政策を実施しました。学校においても宗教教育（神道）や天皇崇拝、軍国教育を断ち切るため、様々な査察を行いました。進駐軍の摘発を恐れた吉田校長は、ひそかに校長室の神棚や校庭にある遥拝所（神様をまつってある場所）の鳥居、校旗を焼いて処分したそうです。校旗には伊佐具神社からいただいた「菊と巴の紋章」が描かれていたからです。さらには、ＧＨＱによって剣道の道具一式も廃棄させられました。学校のシンボルで伊佐具神社から紋章を戴いた校旗を焼かざるを得なかった校長の心の中は、苦しかったに違いありません。しばらく、校旗がなかった学校ですが、園田村が尼崎市に合併坂部小学校」に校名が変わったのを機に、改めて新しく作られました。それが、現在学校にある３代目の校旗です。このように校旗には、様々な事情や人の想いがこめられているのです。



初代校旗「園田第三尋常小学校」昭和11年～

三代目校旗（現在）

二代目校旗「園田第三国民学校」と
長谷川校長　昭和16年～

遥拝所（神様をまつってある場所）

武道場にある竹刀などの武道具（赤枠）は、GHQの命令によって廃棄させらました。
枠内の右の人物は吉田校長です。